

新丸山ダム資材搬入道路のユクノキ (2005)

新丸山ダム資材搬入道路として整備された「エコライン」
大久後川道路建設予定地に3本のユクノキの大木があった。
ユクノキは当時発刊したばかりの御嵩町版レッドデータブック
2005の町レベルのレッド種だったことから現地で話し合いが行わ
れた。

(国交省・造園業者・調査担当者・御嵩町アドバイザーで)
国交省は「今更設計変更は出来ない」といい、造園業者は
「移植には1本300万はかかるが成功する保証はなく難しい」
といい、伐採はやむなしという事になった。しかし…

後日、国交省から「設計を変更します」と連絡が。



大久後トンネルに至る川の右岸
に今も残る3本の「ユクノキ」
(道が曲がりくねっているのは
ユクノキを避けたから?)



ユクノキ (マメ科) の落葉高木
6月上旬、雪を被ったかのように
咲くのでユキノキからユクノキと
名がついたという説がある



みたけの森・桜の植樹計画 (2006)

2006年：みたけの森高原湿原の東に3000本の桜を植樹し「さくらの森」を造る計画

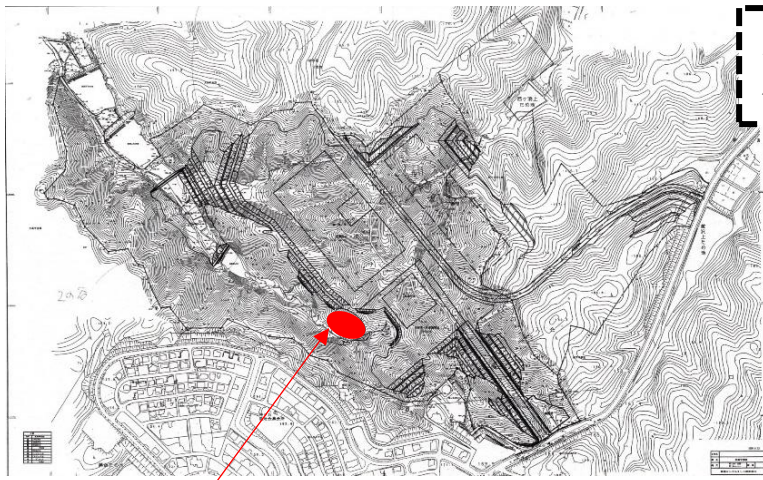
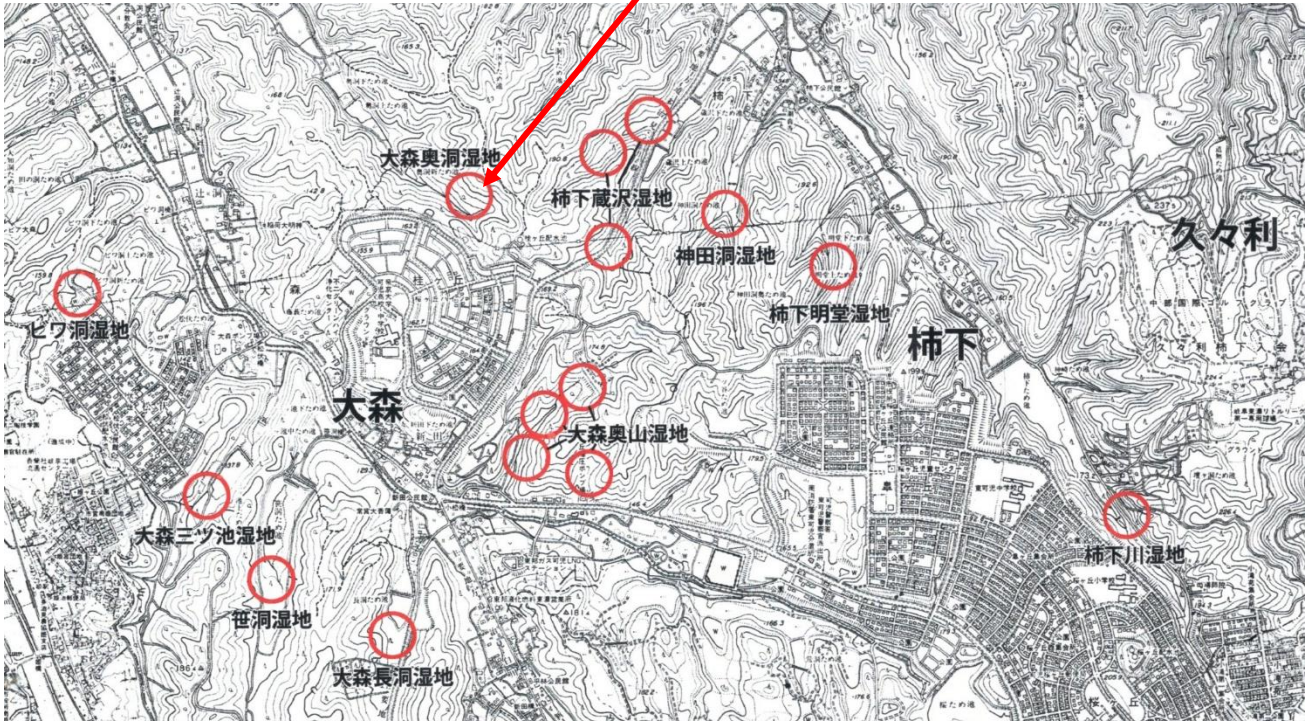


植生調査の結果、連続的な湿地と判明



町長判断で計画地を変更することに

大森湿地群 (奥洞湿地・現在のバロー湿地)



2008年、35haの山林にバローK.Kが研修センターと物流倉庫の建設を計画



大森奥洞湿地：1000㎡の砂礫湿地が計画内にあることから湿地保存の要望がある



地元公民館で何度かの話し合いが行われた結果、
図面の変更はせず湿地を避けて建設されることに

その対応が地元民から高く評価され、
今では皆から「**バロー湿地**」と呼ばれている

希少種・湿地保全例③

大森湿地群 (奥山湿地群)



消滅する以前の M10 湿地

2018 年、K.K エコテック社がメガソーラー発電建設を計画



計画内に 10 ケ所の湧水湿地が存在し、地元との話し合いが。



9 ケ所は保全されたが最下流部の 1 ケ所 300 m²は消滅



消滅した M10 湿地の現在



ヒメヒカゲ
2015.6月を最後に可児
の湿地から姿を消した



ノハナショウブ
可児市ただ一つの
自生地消滅

大森奥山湿地群を守る会
残された湿地の保全活動を地元自治会が行っている。小中学校の環境学習の場としても活用され、ヒメタイコウチ・ハッチョウトンボ・食虫植物などの観察会が毎回人気を得ている。

押山谷の自然 (ヤードとトンネルエリア)



現在はヤード工事で2軒の家が移転され、
立入禁止区域となっている。
2010年ごろは、押山川でもゲンジボタルが
飛んでいた・・・
ヤード工事区域
トンネル工事区域にも
希少種があったが・・・
今はどうなっているだろうか？



イヌブナ (御嵩町旧レッド種)
標高の低い御嵩町では珍しい



ヤード部のユウスゲ
(岐阜県準絶滅危惧種)



ヤード部のキツネノカミソリ
(御嵩町旧レッド種)



押山川のシデコブシ/2015/4月撮影
(国/準絶滅危惧種・岐阜県/絶滅危惧Ⅱ類)



押山川のミカワバイケイソウ
(国・岐阜県/絶滅危惧Ⅱ類)



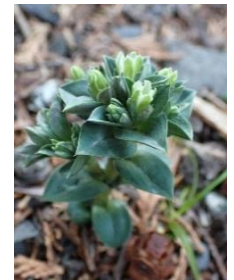
押山谷のミゾゴイ巣
(岐阜県/絶滅危惧Ⅱ類)



ヤードエリアの
サンコウチョウの巣
(岐阜県/準絶滅危惧)



カキノハグサの群生地
(岐阜県/絶滅危惧Ⅱ類)



フデリンドウ
(御嵩町レッド種)



押山川ではオオタカに食べられ
たミゾゴイの羽根も拾われた



押山谷のケタガネソウ
(岐阜県/絶滅危惧Ⅰ類)



押山川のカザグルマ2ヶ所・2015/5/17撮影
(国・岐阜県/絶滅危惧Ⅱ類) (御嵩町指定希少種)



真多羅ため池と上流湿地の自然

赤字は何らかのレッド種

ハナノキとシデコブシの他にも・・・



ナツツバキ・町内1の大木



えん堤のクララ



カワセミ



ヒメシロネ



水を抜く前の真多羅ため池



タムシバ



半寄生/クチナシグサ

2023 ミカワバイケイソウ開花



ギフチョウの卵と
ヒメカンアオイ



マルバノキ



ミズギボウシ



アズマヒキガエル
とオタマジャクシ



カヤラン(町)



ウスギヨウラク(町旧)



サワシロギク



アカハライモリ(国・準)



ヒメタイコウチ
(国・準)



フクロウの羽根
(県・準)



ムヨウラン sp



センブリ



ハナノキの幼苗(国・県II類)



クロミノニシゴリ(東海丘陵要素)



ウメモドキ

JR 東海に提供した希少種図 (2015/2月)

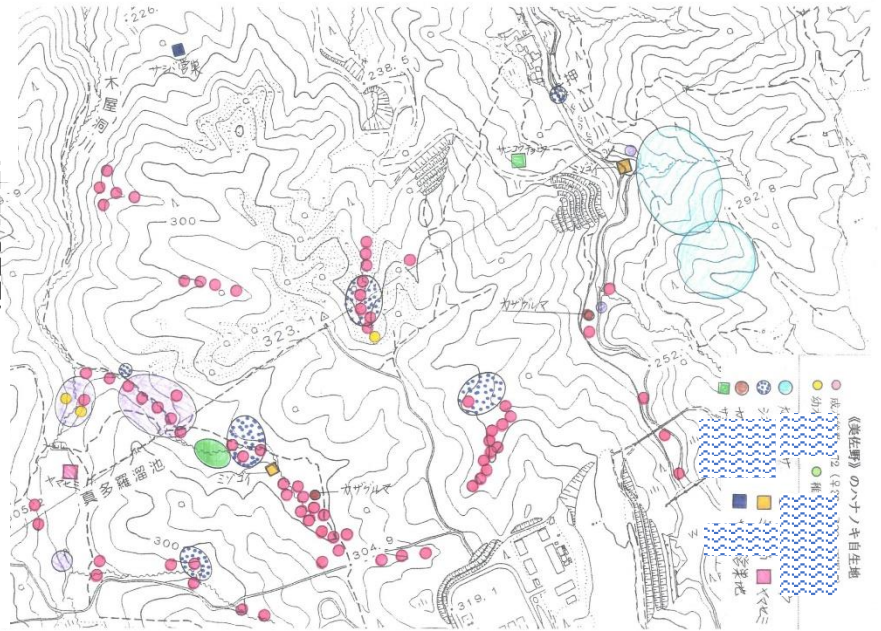
2015/2/17 JR 東海から御嵩町生物環境アドバイザーに対し、美佐野地域の希少種情報提供を求められた。

JR→希少種保全のため協力下さい

私→その時提供した希少種分布図→

植物 (ハナノキ、シデコブシ、ミカワバイケイソウ、カキノハグサ、カザグルマ)

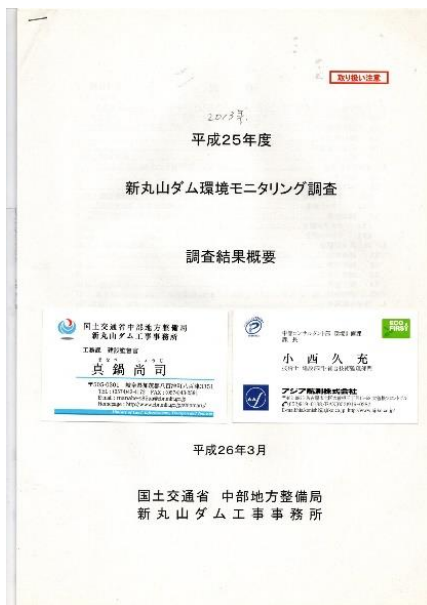
鳥類 (サシバ、ミゾゴイ、ヤマセミ、サンコウチョウ) サシバとミゾゴイの営巣木も記されている。



JR→1年間生物調査し、適地か不適地かを判断し、終了後、報告会を行うと説明

その後、2度にわたり新情報を提供したが、報告会はついに行われなかったばかりか、2017年、「報告会と希少種保全についての話し合いはいつ行なうのか？」と電話した途端役場から呼び出され、アドバイザーの「退職届」にサインをと迫られた。希少種情報を提供して、このような扱いをする事業主はJR東海が初めて。

JRの保全対象種は植物ハナノキ・シデコブシ・ヒメコヌカグサ・カキノハグサの4種のみ、鳥類はサシバの1種のみなのはなぜか？



2013年、新丸山ダム建設に伴う希少種情報の提供を求められ、リストと地図を提供した。

国交省とアセス担当コンサルタント、アドバイザーで現地視察を行った。

1年後、新丸山ダム環境モニタリング調査の報告書が届けられ説明を受けた。